

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課：国道・防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道482号 鶴岡道路	事業区分	一般国道	事業主体	兵庫県
起終点	自：兵庫県城崎郡日高町上郷 至：兵庫県城崎郡日高町祢布			延長	2.74km
<p><b>事業概要</b></p> <p>一般国道482号は、京都府宮津市を起点とし鳥取県米子市に至る延長約344km(重用区間約151km)の幹線道路であり、兵庫県内においては県内有数の観光地を連絡する東西の幹線道路として、観光や産業の発展を支える重要な路線である。鶴岡道路は、日高町の中心市街地をバイパスで迂回し、幅員狭小で老朽化の著しい鶴岡橋の架け替えやJR山陰本線との立体交差を含む延長2.74kmの2車線道路である。</p>					
<p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>県北部の但馬地域の東西幹線道路網を強化し、地域間交流を促進して観光や産業の発展に寄与する。また、日高町中心部において、幅員狭小で老朽化の著しい鶴岡橋、人家密集地及びJR山陰本線の踏切を通過している国道482号のバイパスを整備することにより、市街地内の交通の安全を確保し、安心して利用できる生活道路としての機能の向上を図る。</p>					
全体事業費	68億円	計画交通量	8,300~4,200 台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

**関係する地方公共団体等の意見**

一般国道482号鶴岡道路は、地域間交流の促進、観光や産業の発展とともに地域住民にとって安全・安心で災害に強い道路としての重要な役割を果たすことが期待されており、豊岡市をはじめとする関係1市5町の首長で構成される兵庫県国道482号整備促進期成同盟会より早期整備の要望(平成16年11月15日)

**事業採択の前提条件**

- ・ 便益が費用を上回っている(費用便益費 B/C=1.6)
- ・ 平成17年度内の都市計画変更の実施、用地取得における日高町の協力等、円滑な事業執行環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用: 54億円 事業費: 52億円 維持管理費: 1億円	総便益: 87億円 走行時間短縮便益: 76億円 走行費用減少便益: 10億円 交通事故減少便益: 2億円	基準年: 平成16年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.7 (交通量 + 10%)	B/C=1.5 (交通量 - 10%)		
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費 + 10%)	B/C=1.8 (事業費 - 10%)		
	事業期間変動	B/C=1.6 (事業期間 + 25%)	B/C=1.6 (事業期間 - 25%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		渋滞損失時間が県内および全国平均を上回る区間の渋滞を解消する。 【渋滞損失時間の改善】 90,255人時間/年 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】 104,784(人時間/年)/3.32(km)/1,000 =31.6 (千人時間/年km) 県内平均 16.9(千人時間/年km)、全国平均 20.3(千人時間/年km)		
		事故対策		死傷事故率が高い区間の事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】 (死傷事故率比(県内平均比) 2.85) 154人/億台キロ (事故率曲線における位置: 上位2割以内)		
	社会全体への影響	歩行空間		現道は人家密集地かつ歩道未整備であることから、通過交通を排し、安心して利用できる生活道路としての機能向上を図る。(現道歩道なし、バイパス整備による市街地の迂回)		
		住民生活		2次救急担当医療機関である公立日高病院へのアクセス性が向上する。(幅員狭小である鶴岡橋の架け替えにより未改良区間の解消が図られる。)		
		地域経済		但馬地域の東西の幹線道路網を強化し、物流や地域間交流を促進し、観光や産業の発展を支える。(バイパス整備による市街地の迂回)		
		災害		老朽化が著しい鶴岡橋を架け替えることで安全で円滑な交通を確保できる。(平成2年9月、台風19号により鶴岡橋が被災、平成16年10月、台風23号により現道が冠水)		
環境			注目すべき影響はない			
	地域社会		円山川右岸地域から南北幹線道路へのアクセスが向上し、広域的な地域間の連携・交流が促進される。(出石町方面 国道312号より北方面へ)			
事業実施環境			平成17年度早期の都市計画変更の実施、用地取得における日高町の協力等、円滑な事業執行環境が整っている。			

採択の理由

老朽化が著しい鶴岡橋が再度、被災する恐れがあり、早期に架け替える必要がある。着工に向けて準備が進んでいる北近畿豊岡自動車道へのアクセス道路としての機能を発揮させるため、早期に着手する必要がある。以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。